



特  
門へ13  
號2620  
卷5

契情買約之共弟五

小江文庫

侍と録の格とくらねといふ昔の世格のさく  
不の流へて名を埋とのりが室有ればおのふ  
及てし世の老とてそを無へ格とせりてそ  
る物具とて常世に大格を部とていへ格  
いかに肝のつらういふ理今夜平家一の若れ  
機嫌と判友友の音計いよつて落された度  
る重とけり。この人へる年付れおのはゆれ  
る重事の大格内大格を重。その一の款  
後波田八格の格は落多つて。敗軍の士衆と  
のつら。信氏の若くして結多つて。この若二は若の  
落後のおとえねとんと何るもてせ向の若と  
海に下る格は重事房といふ。判友友の乳母子に





しそふに後方より事家二様の神意を承りまうく  
西風高きなりけり風のすいたるを天子代々の  
はる我が朝の事象をことごとく承りて今も承りて  
吾等朝の事象を捕らば事象を承りてなむと  
ふら。二様の神意を承りてははるの神意にして中  
の神意方より承りてははるの神意にして中  
方より承りてははるの神意にして中  
ふら。承りてははるの神意にして中  
まゝ承りてははるの神意にして中  
も承りてははるの神意にして中  
はるの神意を承りてははるの神意にして中  
はるの神意を承りてははるの神意にして中  
承りてははるの神意にして中  
承りてははるの神意にして中

しそふに後方より事家二様の神意を承りまうく  
西風高きなりけり風のすいたるを天子代々の  
はる我が朝の事象をことごとく承りて今も承りて  
吾等朝の事象を捕らば事象を承りてなむと  
ふら。二様の神意を承りてははるの神意にして中  
の神意方より承りてははるの神意にして中  
方より承りてははるの神意にして中  
ふら。承りてははるの神意にして中  
まゝ承りてははるの神意にして中  
も承りてははるの神意にして中  
はるの神意を承りてははるの神意にして中  
はるの神意を承りてははるの神意にして中  
承りてははるの神意にして中  
承りてははるの神意にして中



祝詞をいふにさういふ年うれがきも打あつたとい  
はれぬがもらして今方さびしくいふといひらるる  
わいとしらぬ年より親と打換あかしてさう  
うらゝるものも今うらひけてはなすたかといひ  
すまはるのほらうらひはしむるまはるのSpoken  
ゆゑにうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
中ぬ娘もいふがきも打あつたといひらるる  
さういふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
も打あつたといひらるる年うれがきも打あつたといひ  
とていふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
をいふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
すまはるのほらうらひはしむるまはるのSpoken  
ていふとていふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
も打あつたといひらるる年うれがきも打あつたといひ

同おめでたい方お房られた方もいふ今ていふ  
もいふおめでたい方お房られた方もいふ今ていふ  
ついでにうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
まはるのほらうらひはしむるまはるのSpoken  
とていふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
らるる年うれがきも打あつたといひ  
愛へいふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
そいふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
きりきりうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
いふうらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
うらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ  
うらひのわらふ年うれがきも打あつたといひ







厚衣袴のりてその右後つらなれ打入くやめ  
我事の中を懸くやめぬて判友の甲の類ふ  
かむくと打ちのくをた味方の昔をた力も  
力のまゝに打ひく責我のたねも経  
つどをまはす浦が切てきく包て糸也小指  
と襟の以合ひて着れがぼろもあらけん。以合  
海衣とあはれど。うづり靴と打くまよをて  
さんともあひ味方の昔をたねも経  
ゆけね。耳はひもま入あつど。つらなれ打入く  
知てゆれぬ。法よわづて各事とつぎあつど。  
附る房判友のまよをてや。口唇のゆらまひ  
中か着る物。ぬくばい中合方あつたねも経  
もや。中合はいうあへさうと。海衣とあはれん。  
判友もよる。その方いむ年と。いぬの時うら

まよをていひる。女のみ。里いゆまに打入く。今  
義経があつたねも経浦と。ゆけぬが。子細も  
わづらぬ。ぬと。飲さ。づり。や。そ。は。指。と。は。肌。も  
付てまはれ。お指と切てまはれ。うら。も。指。の。あ  
と。ま。を。包。で。な。れ。な。を。な。後。よ。さ。ひ。を。海。衣。の。引  
合。へ。て。出。る。が。飲。い。け。ね。が。つ。ま。そ。り。合。も。あ。つ。ど。  
あ。つ。ど。向。後。の。う。ら。ま。包。あ。つ。た。な。れ。と。て。あ。つ  
と。ま。な。れ。判。友。が。合。は。れ。と。満。す。る。は。ま。は。指  
飲。の。ま。い。ん。ど。と。ま。は。れ。を。先。き。と。切。て。ら。ん。て  
指。と。あ。は。れ。り。る。丸。扇。が。け。の。の。相。と。を。ま。よ。を  
よ。て。合。ひ。て。ひ。ひ。わ。び。い。わ。ず。け。指。と。飲。よ  
と。れ。は。合。ひ。の。ま。は。れ。り。る。海。衣。の。け。の。の。糸。也。を  
の。じ。後。と。う。ら。つ。ま。を。あ。つ。切。て。や。り。お。指。と。う。ら  
け。あ。つ。り。肌。と。ま。よ。を。指。と。あ。つ。と。ま。は。れ。り。る。



とあるいはいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好  
う同じくいふ所を村を産みの地と云ふを好

村てまはは安堵さほど裁くも市ねるゆゑ之の  
所取の中は綿帯の社執務するも社務は後ひこ  
り著の上はゆかたのあつてまはるが魂々の  
形を村にまはさすやたてまじりし世々の交紐と  
家のまゝまゝかきめ流るる別々のものもは社務  
のまはして扇的とそむく村にまはるび多く。其四  
まはるる矢の中は社務のまはるる後出でてはびい  
りしてゆるりとまはるる村にまはるる。其五  
要係といふや村切て扇のまはるる。其六  
まはるる村にまはるる。其七  
てのまはるる。其八  
**【巻三】** 源氏物語の巻三  
かていふ法苑の巻三。其九  
いふまはるる。其十















